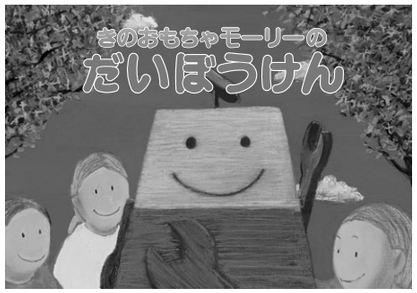
きのおもちゃモーリーの
だいぼうけん



1 きのおもちゃモーリーのだいぼうけん

モーリーは木でできたロボットのおもちゃです。

山の中の森で生まれ、今はみんなの住む尼崎の「なかよし園」に住んでいます。

なかよし園のみんなはモーリーが大好きで、毎日、一緒に楽しく遊んでいました。

――ぬく――

←――――――――――――――②

PLAJAC
P

② プラジャックの登場

ところがある日、プラスチックでできたおもちゃ「プラジャック」がやってきました。

プラジャックは、光ったり、動いたり、みんなは、あっという間にプラジャックに夢中になりました。

モーリーはみんなが遊んでくれなくなったので、寂しくなり、部屋の隅っこで泣いていました。

モーリー
「僕もプラジャックみたいになりたいな…」

その時、モーリーは自分を作ってくれたおじいさんのことを思い出しました。

モーリー
「そうだ！　僕もプラジャックみたいにかいぞうしてもらおう！」

モーリーはおじいさんに会うために自分が生まれた森へ旅に出ることにしました。

――ぬく――

補足・コラム

プラジャックとモーリーはプラスチック製品と木製品の対比になっています。

身の回りにあふれている便利なプラスチック製品ですが、その多くは化石燃料からできています。

木は植えて育てれば木材として何度でも利用できますが、化石燃料は限りがあり、リサイクルはできても、再生産はできません。

環境意識の高まりから、近年はプラスチックの代替として、木や紙の素材も使われるようになってきました。

限りある資源を上手に使うために、製品の素材にも注目してみてください。

③ モーリーの旅立ち

朝早く、なかよし園を飛び出したモーリーでしたが、どっちへ行けばいいのでしょう？

モーリー
「そういえば、僕が生まれた森は川が流れていたな。川に沿って山のほうへ行けばおじいさんに会えるかもしれない！」

モーリーは川に沿って歩き出しました。

猫に追いかけられたり、険しい山道を登ったりしながらも、モーリーはなんとか森までたどり着くことができました。

――ぬく――

補足・コラム

都市部である尼崎市では普段の生活の中で山や森を意識することは少ないと思います。

しかし、市内を流れる武庫川や猪名川は山につながっています。

モーリーが川沿いに山へ向かうことで、私たちのまちも、山や森につながっているということをこどもたちに知ってもらえればと思います。

←――――④

④ こわい森でのできごと

しかし、たどり着いた森はなんだかモーリーが知っている森とは違うみたいです。

やせっぽっちの木が、狭そうにギューギューに生えていて、太陽の光が届かず、昼間なのに、あたりは真っ暗です。小鳥のさえずりも聞こえません。

ピューと風が吹くと、**「バターン！」**とやせっぽっちな木が、倒れてきました。

モーリーは怖くなって泣き出しました。

モーリー

「えーん、えーん、ここはどこー、おじいさんに会いたいよー」

―――― ぬく ――――

補足・コラム

ここでは今日本の森が抱えている問題点を描いています。

手入れ不足の森では間伐が十分に行われていないため、木が密集して生えています。

密集して生えることで、地面まで光が届かず、下草などの植物が育ちにくくなります。

下草がないとそこを住処にする虫やそれを食べる動物も住みにくくなるうえに、土がむき出しになり、雨水をためる力が弱まるため、土砂災害が起こりやすくなります。

また、根も十分に張れないため、風による倒木も起きやすくなります。

⑤ ←

5 おじいさんとの出会い

その時です。**「コーン、コーン」**と木を切る音が聞こえてきました。なんだか懐かしい音です。

モーリーは急いで音のする方に駆け出しました。

すると、あたりはどんどん明るくなってきて、大きくて立派な木が、ゆったりと生えています。小鳥も**「ちゅんちゅん」**と歌を歌っています。モーリーが生まれた森です。

モーリー
「あっ！おじいさんだ！」

モーリーはおじいさんに駆け寄ります。

―――― ぬく ――――

補足・コラム

適切に手入れされている森は間引き（間伐）が行われ、地面まで光が届き明るくなります。

光が届くことで、地面に下草などが生えて、たくさんの生き物が住める環境になるほか、雨水を貯める力が増し土砂災害も起こりにくくなります。

また、根をしっかり張ることができ、倒木の危険性も下がります。

←――――⑥

⑥ おじいさんの工房

おじいさん
「モーリーよく来たね」

おじいさんは優しく、モーリーを抱きしめました。

おじいさん
「今日はもう遅いから、泊まっておいき」

モーリーはおじいさんが住んでいる小さな小屋に連れて行ってもらいました。

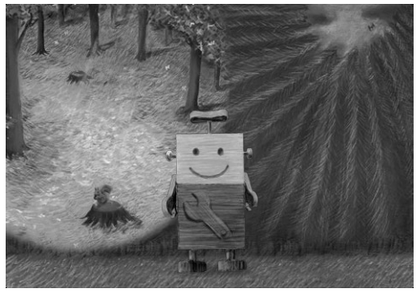
そして、モーリーは今までの出来事をおじいさんに話しました。そして言いました。

モーリー
「ぼくをプラジャックみたいにかっこよくしてほしいんだ」

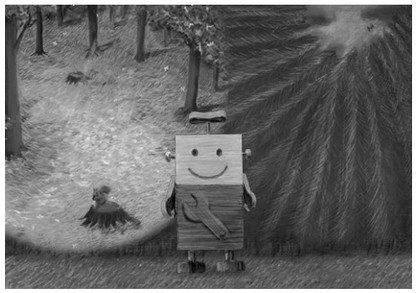
おじいさんは、**「うん、うん」**と優しくモーリーの話を聞いてくれました。そして言いました。

おじいさん
「モーリー、辛い思いをしたね。でも、君は君のままでいいんだ…君が生まれたことには大きな意味があるんだよ。」

―――― ぬく ――――



←――――― ⑦



7 僕が生まれた意味

モーリー
「僕が生まれた意味？」

おじいさん
「ここに来る途中に暗い森があっただろう？ モーリーが生まれたこの森と何が違うかわかるかい？」

モーリー
「うーん、わからないや」

おじいさん
「あの森に光が届かなくなったのは、だれも木を切らなかったからなんだ。木を切ってあげたほうが森は元気になるんだ。」

モーリー
「木を切ってもいいの？」

おじいさん
「切り過ぎは良くないけど、ギューギューに木が生えていると、下の葉っぱまで、光が届かなくなってしまうんだ。木はお日様の光を浴びて大きくなるからね。光が届かないと大きくなれないんだ。」

モーリー
「だから、あの森は暗くてやせっぽちの木ばかりだったんだね。」

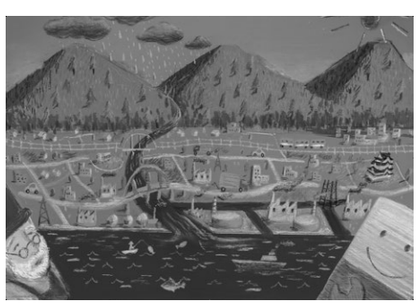
おじいさん
「そんな元気のない森を、明るくて元気な森にするために、わしは木を切っていたんだよ。」

――ぬく――

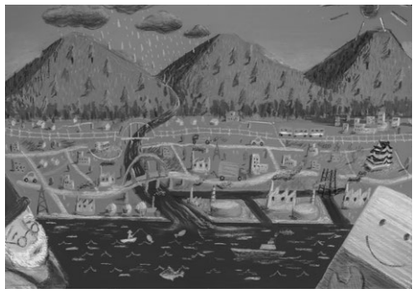
補足・コラム

木を切ることはよくないというイメージがありますが、必ずしもそうは言いきれません。海外で問題になっているような大規模な森林伐採はよくありませんが、日本の森のように放置されている森も問題（4ページ参照）を抱えています。

ここでは手入れをされていない森を「元気のない森」、手入れがされた森を「元気な森」（5ページ参照）と説明しています。



←⑧



⑧ 元気な森の役割

おじいさん
「森が元気だと、なかよし園のみんなにもいいことがいっぱいあるんだ」

モーリー
「いいこと？」

おじいさん
「たとえば森はものが燃えたときにでる煙のような汚い空気を吸って、きれいな空気にしてくれるんだ」

モーリー
「僕たちがきれいな空気を吸えるのは森のおかげなんだ！」

おじいさん
「ほかにも、元気な森はたくさん雨が降っても洪水にならないように、雨水を吸い込んでくれるんだ。そして、吸い込んだ雨水を、ゆっくりゆっくり、きれいな水にしてくれるんだよ。」

モーリー
「そうなんだ！遠くの森が、僕らのまちを守ってくれたり、川をきれいにしてくれていたんだね。」

―――― ぬく ――――

補足・コラム

森林はわたしたちの生活に様々な恩恵をもたらしてくれます。

例えば、木には空気をきれいにする力があり、汚染物質などを吸収してくれます。

また、コケや微生物などがいる豊かな森の地面は柔らかなスポンジのようになっており、雨水を貯めておく力や、きれいにする力が高まります。

←――― ⑨

⑨ おじいさんからのメッセージ

おじいさん
「モーリー、どうしてわしが君を作ったか分かったかな。」

モーリー
「おじいさんは木を切って、僕を作ることで、森を元気にしていたんだね。」

おじいさん
「でもそれだけじゃないんだ。」

モーリー
「ほかにもあるの？」

おじいさん
「なかよし園のみんなに木の良さを知ってもらいたいんだ。そして、木でできたものを使って、元気な森を増やすお手伝いをしてほしいんだ。」

モーリー
「木の良さ？」

おじいさん
「モーリー、君はとってもいい香りがするよ。木の優しいにおいだ。触ると少し柔らかく、温かい気持ちになれるんだよ。プラジャック君みたいにならなくても、君には君の良さがあるからね。胸を張って帰りなさい。」

―― ぬく ――

補足・コラム

尼崎市と川でつながっている兵庫県の森、ひいては日本の森に手を入れていくには、兵庫県産・国産の木製品を消費し、その需要を増やす必要があります。

そのために木の魅力をもっと知ってもらうとともに、県産材・国産材を選択する必要性を伝えられたらと思います。

← ⑩

10 出発の朝

モーリーはおじいさんの話を聞いて、自分が誇らしく思え、優しい気持ちのまま眠りにつきました。

朝、目を覚ますとなんだか心が軽くなっていて、空も飛べそうです。今すぐなかよし園のみんなのもとに飛んでいきたい気持ちになりました。

モーリー
「おじいさん、本当にありがとう。僕はみんなに会いになかよし園に帰るよ。」

おじいさん
「それが良いね。モーリー、頭のプロペラを回してごらん。」

モーリーがプロペラを回してみると、体がふわっと浮かび上がり、みるみるうちに空高くまで飛んでいきました。モーリーは急いでなかよし園に向かいます。

―――― ぬく ――――

11 なかよし園にモーリーがいない

その頃、なかよし園ではみんなモーリーを探していました。

こどもたち
「モーリーどこ行っちゃったんだろう？」

「モーリーと遊びたいよ」

なかよし園のみんなはもうモーリーの良さを知っていました。
優しくて、いい香りの、木でできたモーリーのことを、みんな
はずっと大好きだったのです。

――ぬく――

NAKAYOSHI

12 みんなとの再会

すると空からモーリーが帰ってきました。

こどもたち
「モーリーだ！」

みんなは大喜びでモーリーに駆け寄ります。

大冒険から帰ってきたモーリーは、なんか少しお兄さんになったみたい。

そして、モーリーはゆっくりと冒険のこと、森のこと、自分の生まれた意味を語り始めました。

みんなは森の大切さや、木を使うことの意味をモーリーから教えてもらいました。

ありがとう、モーリー、これからもずっと一緒にあそぼうね。

おしまい。

最後に

紙芝居にはモーリーのおもちゃがセットになっています。

紙芝居を読み終えましたら、モーリーを使って、「みんなは森の大切さがわかったかな？」など、こどもたちに学んだことや感想を聞いてみてください。

きのおもちゃモーリーのだいぼうけん

令和５年12月25日発行

作・絵　池谷 剛一
企　画　株式会社なかよしライブラリー
発　行　尼崎市 経済環境局 環境部 環境創造課
〒660-8501
尼崎市東七松町１丁目23番１号
TEL：06-6489-6301
印　刷　小宮山印刷工業株式会社